

資料紹介

昭和十七年八月廿一日起 日誌

西山 伸[†]

〔解説〕

一 資料の概要

本稿で紹介する資料は、京都大学大学文書館が所蔵する『昭和十七年八月廿一日起 日誌』（識別番号01A11542）である。

本資料の表紙には、作成主体として「京都帝国大学」とのみ記され学内のどの部署か分からないが、内容から庶務課によるものと推測される。形態は、縦二五二ミリ、横一八〇ミリ、厚さ一五ミリの簿冊であり、京都帝国大学の名称が入った縦二〇行の罫紙を二つ折りにし、袋とじに八八枚を綴じたものである（冒頭一枚と末尾の四枚は白紙）。

表題にあるとおり、本資料は一九四二年八月二日から始まる日誌で、翌一九四三年八月二〇日まで書き継がれている。原則として毎日、日付、曜日、天気を記し、そのあとにその日あった事項を箇条書きで記入している。筆跡は、一九四三年二月一九日から二八日の中途までを除き、期間を通じて同一のものである。なお、以前やはり当館所蔵の「昭和十八

年八月 日誌」を本紀要で紹介したことがあるが、これは本資料に続くものである。

二 資料の内容

本資料は、日誌という性格上、記載されている個々の出来事についての記述は概して簡略で、項目が列挙されているだけであることが少なくない。とはいえ、大学内で催された各種の行事や講演会、会議、来学者などこの時期の京大の動きを知る手がかりになる内容も含まれている。ここでは、本資料の記述に関連する範囲で、いくつかの出来事について簡単にたどつてみる。

（一）羽田亨総長の再任

本資料一九四二年一月一九日条（以下「四二・一一・一九」のように表記する）には、「慣行ニ依ル総長候補者答申手続終了ノ処現任総長引

[†] 京都大学大学文書館教授

続キ在位ノ事ニ決定致シタルニ付其ノ旨各学部長ニ対シ書記官ヨリ依命通牒セラレタリ尚午後四時書記官室ニ於テ各新聞社ニ発表セラレタリ」とある。当時総長の任にあつた羽田亨の再任決定を示す記述であり、新聞にも「京大総長羽田亨博士は本月二十五日をもつて就任満四ヶ年となるので慣例により去る十六日教授会を開き次期総長候補者の答申を求めたところ引きつゞき同総長が重任することに決定した^②」といったように、関連の記事が掲載されている。

京都帝国大学における総長任命にあたつては、一九一九年の荒木寅三郎(再任)以来、学内の教授による選挙で候補者が決定される仕組みが出来上がつていて、他の帝国大学も同様の方法を採用していた。しかし、一九三八年の浜田耕作総長の死去を契機に、当時の荒木貞夫文相が各帝国大学の総長や教授・助教授が学内(教授・助教授は当該学部内)の選挙によつて決定されていることを問題視し、文部省と各帝国大学との間で折衝が繰り返される事態となつた^③。

その結果、総長については「全教授ノ意見ヲ徴シテ後任候補者ヲ銓衡」すること、「教授ノ答申ハ署名セル文書其他責任ヲ明カニスル方法ヲ以テ」行う、すなわち学内の教授の意向は確認するものの、それは選挙ではなく答申という形で行われることとなつたのである。従つて、当然本資料中の羽田の再任も、そうした手順によつて行われたことになり、前記新聞記事における「慣例により」も、一九三八年に定められた手順によることを意味している。

この羽田再任については、さらにいくつかの点を指摘しておかなくてはならない。第一は任期の問題である。一九三八年の制度改正以前には、京大総長の任期は四年と定められていた^④。しかし、荒木文相の改正要求を受けた折衝の中で、文部省側は「任期ニ関シテハ之ハ天皇ノ大権ニ及ブモノデアルカラ任期何年ト内規ニ定メテ公然之ヲ知ルノハヨクナイ」^⑤

と主張し、その結果京大で一九三八年に定められた「総長候補者銓衡手続内規」からは任期に関する取り決めは姿を消していた^⑥。しかし、羽田の総長就任は一九三八年一月二五日であり、四年任期制は明記されてはいないものの、事実の問題としては引続き適用されていたことになる。

第二は答申の手順である。右の「総長候補者銓衡手続内規」では、候補者銓衡にあつて各学部から三名の協議員を推薦させて協議員会を組織することになっていた。そして、最初の答申は学内の全教授が行うが、それによる多数者一〇名を選んだ後は、その協議員が答申を行つて(二回を想定)候補者を銓衡するという形をとっていた。それが一九四一年一月一八日の評議會で新たな「総長候補者銓衡手続内規」が可決され、協議員会が廃止されて計三回の答申をすべて全教授が行うように改正されている^⑦。どのような議論を経てこの改正が行われたのか、残念ながら管見の限りでは不明であるが、本資料における羽田再任にあたつては全教授がすべての答申を行つている。

第三は、前記の新聞記事に見える「十六日教授会を開き」についてである。大学文書館に所蔵されている文学部の教授会記録によると、この前後の教授会は一〇月二八日と十一月一八日であり、「十六日」には開かれていない^⑧。十一月一八日の教授会では、報告事項として「総長答申ノ件」があり「明日一時カラノ評議會ガスムマデ発表ヲマタレタイトノ総長ノ意向ニツキ、ソレ迄御マチ下サイトノコト、ソノ結果ハ速達デ出ス」^⑨とある。一六日は教授会ではなく、学内全教授による答申が行われた日であつた。そのことは本資料から裏づけられる「四二、一一、一六」。

なお、「総長候補者銓衡手続内規」には総長は辞職予定日の三〇日前に答申を行う旨を全学に通知することとされており、本資料に「緊急事項ニ付学部長会議開催」「四二、一〇、二四」とあるのがその通知であつたと考えられる。また同内規に第一次答申用紙を「少クトモ答申期日ノ

十日以前二」各学部教授に配布するとされていることから、学部長に「書記官ヨリ重要書類ノ手交アリ」「四二、一一、二」とあるのは答申用紙であると推測される。

(二) 石川興二教授休職問題

経済学部教授であつた石川興二は、一九四三年三月一八日付で休職になつており、本資料にも関連の記載がある「四三、三、一八」。後年石川自身が行つた証言^⑩によると、石川が一九四〇年に刊行した『新体制の指導原理』中に治安維持法を批判した箇所があり、それが最初議会で、次いで天皇臨席の枢密院で「京大には石川という危険思想の持ち主がいる」と問題とされた。そして、天皇から橋田邦彦文部大臣に経過につき問い合わせたため、文相から京大の羽田総長に事態の展開が伝えられるに至つた。羽田は二年後に人文科学研究所教授に就任させることを前提に、石川を休職とすることとし、経済学部の教授会も了承したとのことである。

議会および枢密院で、具体的にどのような取り上げられたのか、この証言では必ずしも明確ではない。枢密院においては、一九四三年一月一二日の会議で大学令ほか教育に関する法令改正について議論が行われているが、その際三土忠造顧問官が共產主義の問題について取り上げている^⑪。そこで三土は、「愛国主義者ノ如クニ見セカケ時局ニ便乗シテ実質的ニハ「マルクス」主義ヤ共產主義ト紙一重ノ危険思想ヲ鼓吹」する学者がいるとして、「学者ノ氏名モ之ヲ拳グルコトハ差控フベシ」としながら「或大学教授ハ「マルクス」ヲ釈迦ヤ基督ニ比スベキ言者ナリト礼讃シ私有財産制ノ擁護ヲ目的トスル治安維持法ヲ罪惡ノ立法ナリト非難セリ」としているが、これがおそらく石川を指していると考えられる。

また、議会においては二月六日の衆議院予算委員会でもとは立憲民政党に所属していた作田高太郎が、「或ル大学ニ於テ若シ其ノ教授ガ表

面上ハ共產党ニアラザルガ如キ措辞ヲ並ベテ置イテ、事実ハ共產党其ノ儘ノ方式ニ依リ経済原理、社会組織等ヲ説クト云フコトニナレバ、是ハ由々シキ大事デアリマス^⑫」とした上で、「或ル大学ノ教授デアリマスルガ、名前ハ申上ゲマセヌガ、「新体制ノ指導原理」ト云フ本ヲ書イテ居ルノデアリマス」と、明らかに石川を指すと分かる形で「斯ウ云フコトハ構ハナイト御考ヘニナツテ居ルノデアルカ」と橋田文相を追及していた。これに対して橋田は「教授ヨリ一時退ク、或ハ少クトモ謹慎シテ、能ク自己ノ学説ノ熟達錬磨サレルマデハ慎ムベキモノデアルト云フコトヲ、大学総長ヲ通ジ、又本人ニモ戒告ヲ与ヘテ置イタノデアリマス」と答弁していた^⑬。

なお、前記『思いで草』における石川の証言記録中、聞き手となつていた出口勇蔵（同書刊行時経済学部教授）が、石川休職時に学部長だつた谷口吉彦から聞いた話として、休職を決定した経済学部教授会に関して、「総長がこの学部の教授会を放つておくと、うまく行かないだろうから、俺が主宰するといわれ、総長官舎でやつたんだ、羽田総長が主宰して、そこで決めた^⑭」というエピソードを披露している。事実であれば、「学部自治の破壊」ということになるが、この真偽は不明である。

(三) その他

一九四二年から四三年は、高等教育の制度改革が議論され、実行され始めた時期でもあつた。その一つに大学院特別研究員制度の創設がある。これは、戦時下に進捗する高等教育機関の年限短縮に関わつて、学術研究の強化方策として考えられたものであつた。一九四三年一月一五日には、新しい大学院制度の骨格が閣議決定されていて、それによると、大学院の目的は国家目的に即応する学術指導者を養成することとされ、帝国大学および所要の官立大学に設置、第一期を二年、第二期を二年または三年、

定員は第一期五〇〇、第二期二五〇となっていた。¹⁶⁾

一九四三年四月に開催された帝国大学総長会議でも、この件は中心的な議題であった「四三、四、二一」。また、総長会議に先立つ三月に九州、大阪、名古屋と西日本の帝国大学総長が京大に集まって懇談会を開いている「四三、三、一九」が、おそらくは大学院問題についての意思統一を行ったものと思われる。

以上紹介した事例に見られるように、本資料の記述は非常に簡潔ではあるが、当時の京大の基本的な動きを時系列的に知るには重要な素材であると言える。

本資料の翻刻にあたっては原則として原文のとおり表記したが、次の事項は例外とした。

- ① 漢字は常用漢字を使用した。
- ② 疑義のある箇所には「ママ」あるいは正しいと思われる文字を「」で付した。
- ③ 判読不明の文字は■とした。
- ④ 本資料に貼付された新聞記事、罫紙欄外の表記については、【】で示した。

〔註〕

- (1) 拙稿「資料紹介 昭和十八年八月 日誌」(『京都大学大学文書館研究 紀要』第二号、二〇〇四年)。
- (2) 『朝日新聞』一九四二年一月二〇日付。
- (3) この事件については、東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史』

通史二、一九八五年、八七七頁、京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』総説編、一九九八年、四〇八頁など参照。

- (4) 総長の任期は、当初は成文化されていなかったが、一九二八年六月二八日に評議会で可決された「総長候補者選挙手続」の第二条に「総長ノ任期ハ四年トシ引キ続キ二期ヲ超ユルコトヲ得ス」とされた(『総長選挙一件書類 自大正八年至昭和十二年』京都大学大学文書館所蔵、識別番号01A01315)。

- (5) 京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』資料編二、二〇〇〇年、四三七頁。

- (6) 京都大学百年史編集委員会編『京都大学百年史』資料編一、一九九九年、二五八頁。もっとも、東京帝国大学で一九三八年に定められた「総長候補者推薦内規」には、第二条に「総長ハ四年毎ニ更迭スルモノトス」と任期が明記されている(『東京大学百年史編集委員会編『東京大学百年史』資料一、一九八四年、四二八頁)。

- (7) 『総長選挙に関する内規及び学長選挙基準 自大正八年至昭和二十四年』京都大学大学文書館所蔵、識別番号01A01316。

- (8) 『教授会記録 昭和十七年』京都大学大学文書館所蔵、識別番号03B00061。

- (9) 同前。

- (10) 京都大学経済学部『思いで草』一九六九年、一八〇頁。なお、前掲『京都大学百年史』総説編、四四四頁にも石川休職についての記述があるが、多くを『思いで草』に拠っている。

- (11) 石川興二『新体制の指導原理』(有斐閣、一九四〇年)は、石川が過去に書きためた論文をまとめた著書である。そのうち、資本主義批判を展開している論文(一九三二年七月執筆)に、皇室に対する罪と私有財産制度に対する罪とが同列に並べられている治安維持法について、「日本国民固

有の共同社会を一貫せる根本原理」であるところの皇室と、それとは全く原理を異にし本質的に矛盾する資本主義原理に基づくところの私有財産制度を同一条例に含ませると批判していた（一四四頁）。

(12) 「大学令中改正ノ件」JACAR（アジア歴史資料センター）Ref. A03033807400 枢密院会議筆記（国立公文書館所蔵）。

(13) 「第八十一回帝国議会議衆議院予算委員会会議録（速記）第十回」一九〇頁（帝国議会議衆議院予算委員会会議録（速記）第十回）。同委員会からの以下の引用も同じ。

(14) この議会でやりとりの一部は、翌日の新聞でも報道されている（『毎日新聞』一九四三年二月七日付朝刊）。

(15) 前掲『思いで草』一八二頁。

(16) 『朝日新聞』一九四三年一月一六日付。なお、その後の議論で慶応義塾と早稲田の私立二大学にも置かれることになった。

〔資料〕

昭和十七年

八月二十一日 金曜日 晴

一、夏季休業中ノ処本日ヨリ授業開始

一、来ル九月卒業スベキ者ノ卒業式ハ九月二十三日举行（臨時医専ヲ含ム）ノ旨告示

一、閣議ニ於テ教育大刷新ノ国策決定其ノ内容ヲ情報局ヨリ発表セラレタリ

中等学校修業年限ハ四年

高等学校高等科（大学予科ヲ含ム）ノ修業年限ハ二年

右年限短縮ハ昭和十八年度入学者ヨリ適用

八月二十二日 土曜日 晴

一、午前十時ヨリ教官食堂ニ於テ学術協会第十八回大会委員打合会開催
一、文部省本田科学課長総合学術講演会開催ノ件ニ付前記打合会ニ出席ノ為来学

一、二十二日ヨリ二十九日迄樫原ニ於テ文部省及大日本学徒体育振興会主催ニテ全国体育大会開催本日開会式ニ当リ東条総理大臣、橋田文部大臣臨場

一、長崎学生主事学生課長ヲ免ゼラレ新タニ日高学生主事ニ学生課長ヲ命ゼラル

一、司書官竹林熊彦依願本官ヲ免ゼラレ学生主事長崎太郎司書官ニ兼任セラル

八月二十三日 日曜日 晴

八月二十四日 月曜日 晴

一、大阪帝大ニ於テ大学高等専門学校連合演習事務打合会開催ニ付山本学生主事、千種書記及配属将校出席ス

大政翼賛会ニ於テハ本日ヨリ一週間「国策輸送協力運動交通訓練週間」実施

一、羽田総長大阪商大学長就任披露招待会ニ列席（午後五時半新大阪ホテル）

八月二十五日 火曜日 晴

一、科学研究費ノ件ニ付キ文部省科学課犬丸事務官外一名来学本部階上

（三橋曜正）

応接室ニ於テ書記官、庶務会計両課長、理学部水谷書記ト事務打合、午後高槻化学研究所視察

一、京都府立医大学長発令(中村登)

一、同附属医院長更迭(前任藤原謙造 后任望月成人)

八月二十六日 水曜日 晴

一、日本諸学振興委員会法学特別学会準備ノ為教学局宮地属、松尾囑託、稲毛雇来学

一、犬丸事務官一行前日ニ引続キ工、農、化研各事務者ト打合

一、法学特別学会々場設備

一、本日ヨリ三日間教官食堂ヲ休止スルコトセリ

八月二十七日 木曜日 雨

一、午前八時ヨリ教官食堂ニ於テ日本諸学振興委員会法学特別学会開催
文部省ヨリ藤野教学局長官、堀池企画部長、原教学官、宮地属外係員
来学

「学会々場ハ教官食堂、参加者控室ハ大ホールノ西側ニ設ク、委員、発表者控室ハ大会議室、本省係員室ヲ応接室トス」

一、午后六時半ヨリ市内河原町朝日会館ニ於テ法学公開講演会開催九時五十分終了

順序

国民儀礼

挨拶 藤野長官

講演

日本の家に就いて

我が綜合国防体制の原理と構造

本学教授 牧 健二

早大教授 中野登美雄

南方の法制 東大教授 高柳賢二

挨拶 羽田総長

一、京都師団参謀長ヨリ八月十七日附ヲ以テ司令部附陸軍大佐村上豊本学服務ヲ命ゼラレタル旨通知アリ

一、午后七時半中央氣象台ヨリ北九州、中国、瀬戸内、四国、近畿方面及其ノ近海ニ対シ暴風雨襲来ノ警報発令アリタルモ当地方ハ何等ノ被害ナシ

一、午后四時大本営ヨリ第二次ソロモン海戦ノ戦果発表

一、午前十一時半頃浜井小使自転車ニテ学生食堂ニ行ク途中西門前ニテ電車ト衝突治療十日間ノ傷ヲ負フ

八月二十八日 金曜日 雨

一、午前八時ヨリ法学特別学会開催午后四時五十分閉会
一、午後六時ヨリ瓢亭ニ於テ藤野教学局長官、堀池部長、原企画課長ヲ招待総長、書記官及両課長出席ス
一、午後三時ヨリ総長室ニ於テ学生課協議員会開催

八月二十九日 土曜日 晴

一、東京市長岸本綾夫氏新任挨拶ノ為来学
一、京都府立医大新旧学長、同新旧附属医院長挨拶ノ為来学

八月三十日 日曜日 曇小雨

八月三十一日 月曜日 雨

一、京都市軍事課主催ニテ午后五時半ヨリつる家ニ於テ忠霊塔建立委員会開催ニ付総長出席セラル

一、米田囑託退職

九月一日 火曜日 晴

一、午後八時情報局ヨリ外務大臣更迭発表

外務大臣東郷茂徳依願本官ヲ免ゼラレ後任ハ首相兼任トナル

一、午後九時二十分情報局ヨリ大東亜省設置シ拓務省ヲ廃止スルノ件発表アリ

一、中央食糧営団設立セラル

一、小川書記東京市へ出張

一、文部省有光秘書課長文書課長代理兼務ヲ免ゼラル

九月二日 水曜日 晴

九月三日 水曜日 晴(小雨アリ)

一、午後一時ヨリ評議会開催

一、片山書記東京、仙台市へ出張

一、満洲国建国大学高橋英一氏事務視察ノ為来学(主トシテ人文学ニ囑スル研究奨励費ニツキ調査)

一、評議会終了後引続キ学生懲戒委員会開催

九月四日 金曜日 晴

一、午後二時ヨリ工学部長室ニ於テ學術協会大会事務打合会開催ニ付庶務課長、佐藤書記出席

一、本日ノ閣議ニ於テ行政簡素化勅令案百六十一件決定セラル

文部省関係ノモノ左ノ如シ

『文部省官制中改正、奏任ノ文部省教学官ノ特別任用、文部部内臨

時職員設置制他二十四勅令中改正』

一、支那事変記念章制定ニ関スル件決定セラル(四日閣議)

九月五日 土曜日 晴

一、特記事項ナシ

九月六日 日曜日 晴

一、本日ヨリ四日間ノ予定ニテ総長東上セラル

一、小川書記帰学

九月七日 月曜日 晴

一、特記事項ナシ

九月八日 火曜日 晴

一、大沢徳太郎氏逝去ニ伴フ京都府多額納税貴族院議員選挙執行セラレ大橋理祐氏当选

一、片山書記帰学

九月九日 水曜日 晴

一、総長帰学セラル

一、午後一時ヨリ教官食堂ニ於テ日本學術協会第十八回大会講演会係及見学係打合会開催

一、午後一時ヨリ防空演習打合 於二階応接室 書記官、学生課長、會計課長、山本、光田主事

九月十日 木曜日 晴

一、午後一時川村教授ト学術協会大会懇親会ノ件ニ付協議会場ヲ中村楼ト決定一五〇名予約セリ

一、午後三時ヨリ学部長会開催 書記官、庶務課長、会計課長、学生課長

一、文学部沢瀉教授本学附属図書館長ニ補セラル

一、午後五時半ヨリ於教官食堂医学部主催同学部助教授ノ懇談会開催

九月十一日 金曜日 晴

一、文部省教学局指導部長近藤寿治氏来学随伴

教学局属吉田鉄助氏来学ノ上文学部陳列館貴賓室ニテ大東亜史編纂打合せアリ

一、水野書記学術協会大会寄附金受領ノ為市内出張

一、本日ノ閣議ニ於テ「勤勞顕功章」制定ノ件及大東亜省官制案決定セラル

九月十二日 土曜日 晴

一、卒業式案内状発送

九月十三日 日曜日 晴

一、府立医科大学幹事中西喜一郎氏ノ告別式同大学ニ於テ執行セラル(仏式)

九月十四日 月曜日 曇

一、午前十時半伊太利国神戸総領事バイストロツキー氏新任挨拶ノ為来学

一、午後三時ヨリ卒業式特ニ家彦王御卒業ニ付階上応接室ニ於テ打合会

午後六時終了

書記官、学生課長、山本主事、会計課長、庶務課長、柴田、林田、秋田、佐藤、小川、片山、水野各書記出席

九月十五日 火曜日 雨

一、満洲建国十週年記念式典ヲ新京ニ於テ挙行セラルルニ付本学ニ於テモ文部省ヨリ通知ノ次第モアリ祝意ヲ表スル為日満両国旗ヲ掲揚セリ
尚十時ヨリ満洲建国十週年慶祝会京都府支部主催ノ慶祝式典ヲ岡崎勸業館ニ於テ挙行ニ付総長及学生代表参列

九月十六日 水曜日 晴

一、午後一時ヨリ卒業式ニ関スル打合会ヲ階上元秘書室ニ於テ開催三時終了

書記官、庶務、会計、学士課長、山本、光田主事
秋田、佐藤、水野、小川、片山、井田、柴田、鈴木、三田各書記、柴辻技手

九月十七日 木曜日 晴

一、午後一時ヨリ評議会開催

一、水野書記日本学術協会大会寄附金受領ノ為市内及乙訓郡向日町並新神足村へ出張

一、情報局總裁谷正之氏外務大臣兼情報局總裁ニ任ゼラル
一、青木一男氏國務大臣ニ任ゼラル

一、有本京都市助役午前十一時来学総長ニ面接

九月十八日 金曜日 晴

一、午前十時半篠原京都市長来学総長ニ面接

一、卒業式々場設備取カ、リ

一、貴族院議員田所美治氏来学

一、京都中央電話局長竹越忠雄氏新任挨拶ノ為来学

一、田所貴族院議員接待 午后五時半岡崎つる家

来賓 田所美治氏、日仏学館宮本正清氏

本学 総長、庶務課長

九月十九日 土曜日 曇小雨

一、午后一時ヨリ本部階上ニ於テ卒業式打合会開催

出席者 書記官（庶務課、会計課、学生課ハ前回ト同ジ）営繕課

吉村技手

九月二十日 日曜日 雨

一、佐藤書記日本学術協会第十八回大会公開講演ニ関スル打合セノ為神

戸高等工業学校へ出張

九月二十一日 月曜日 雨

一、伏見伯爵来学医学部笹川教授ノ案内ニ依リ工学研究所視察セラル

一、卒業証書完成ス

九月二十二日 火曜日 晴

一、技術院次長和田小六氏来学、昼食接待

一、午后三時ヨリ卒業式予行

九月二十三日 水曜日 晴

一、午前十一時ヨリ卒業式挙行

出席者数 来賓四七、教職員二六八、学生八六七

正午式終了引続き家彦王殿下ニ拝謁了ッテ玄關前広場ニ於テ職員、学生、

来賓奉送申上ゲ

各学部別卒業生者左ノ如シ

学部別 昭和十七年九月

創立ヨリノ累計

二十三日卒業生数

法学部

二九九

一〇、二九三

医学部

一四九

三、七〇〇

工学部

二八六

五、三三三

文学部

六四

三、〇四一

理学部

六四

一、八〇三

経済学部

一八四

五、〇五六

農学部

一二一

一、六五一

計

一、一六七

三〇、八七七

臨時附属医学専門部

六二

合計

一、二二九

午後二時半ヨリ都ホテルニ於テ家彦王殿下及故多嘉王妃殿下ニ於カセ

ラレテ総長以下本学職員四十一名ノ御接見アリ

九月二十四日 木曜日 晴

秋季皇霊祭

九月二十五日 金曜日 晴

一、総長東上（五日間ノ予定）

一、喜多源逸教授化学研究所長ヲ免セラレ堀場信吉教授化学研究所長ニ補セラル

九月二十六日 土曜日 曇(小雨)

- 一、午前十時ヨリ「本部宿直服務心得」ニ関スル打合
- 一、陸軍防衛召集規則公布セラル(十月一日ヨリ施行)
- 一、支那事変記念章令公布セラル(昭和十六年十二月八日以後ノ行賞ニ付適用)
- 一、金鷄勲章条例中改正セラレタリ
- 一、本日ヨリ四日間「第三回中央協力会議」開催セラル
- 一、郡場寛教授(理学部長)依願本官ヲ免ゼラル
- 一、松本敏三教授理化学部長ニ補セラル

九月二十七日 日曜日 曇

一、日独伊同盟締結二週年祝賀日

九月二十八日 月曜日 晴

- 一、午前中「宿直員服務心得」ニ関スル打合(第二回)
- 一、午後一時ヨリ日本学術協会大会懇親会ニ関スル打合(於教官食堂)
- 一、文部省会計課属小林直男及同堀井純五氏来学天津市八新ニテ接待

九月二十九日 火曜日 晴

- 一、総長帰学セラル
- 一、文部省会計課属海野正次及雇土館第七郎両氏来学天津市八新ニテ接待
- 一、午後一時ヨリ宣誓式事務打合

九月三十日 水曜日 曇

- 一、午后五時半ヨリ於京都ホテル後宮中部軍司令官ノ招待会アリ羽田総長出席セラル
- 一、医院勤務高橋事務官陸軍司政官ニ任ゼラル
- 一、久島亥三雄助教授教授ニ任ゼラル
- 一、大東俊一助教授ニ任ゼラル
- 一、金沢医大附属薬専教授掛見喜一郎薬局長ニ任ゼラル

十月一日 木曜日 曇

- 一、評議会開催予定日ノトコロ取止トナリタリ
- 一、午前九時ヨリ宣誓式挙行 出席者 職員六七人 学生一、八四三人
- 一、午前中ノ授業休止セラル

十月二日 金曜日 晴

- 一、午後一時ヨリ法経第一教室ニ於テ新入学生就学案内ノ会開催(学生課主催)
- 一、本部宿直員服務心得(案)議了

十月三日 土曜日 晴

- 一、本日ヨリ六日間軍人援護強化運動実施ニ付正午ヲ期シテ各自在所ニ於テ戦歿軍人ノ英霊ヲ追悼シ傷病軍人ノ平癒出征軍人ノ武運長久ヲ祈願スルコトトセリ

十月四日 日曜日 晴

十月五日 月曜日 晴

- 一、去ル九月二十三日本学理学部ヲ御卒業遊バサレタル家彦王殿下ニハ本日臣籍ニ御降下宇治伯爵家ヲ御創立遊バサル尚宇治伯ハ近ク左記ニ新居ヲ構ヘラル由ナリ
- 「東京渋谷区八幡通三ノ一二」

十月六日 火曜日 晴

- 一、安倍第一高等学校長来学総長ニ面会
- 一、過般本学教授ヲ退官大阪商大学長ニ就任セラレタル本庄栄治郎氏ヨリ左記ニ転居ノ旨通知アリ

「堺市中永山園三〇ノ一」

- 一、本日内閣告示第十六号ヲ以テ「靖国神社臨時大祭ニ付本月十六日諸官員並陸海軍軍隊、諸生徒ニ休暇ヲ賜フ旨仰出サル」旨告示セラレタリ

十月七日 水曜日 晴

- 一、午后一時ヨリ大会議室ニ於テ支那ニ於テ功績アル文官等行賞ニ関スル調査ノ件ニツキ打合会開催

十月八日 木曜日 晴

- 一、午前八時十九分警戒警報発令、同五十一分解除
- 一、書記官東上

十月九日 金曜日 曇小雨

- 一、午后一時ヨリ本部教官食堂ニ於テ学術協会大会講演会係員打合会開催

十月十日 土曜日 晴

- 一、解剖体祭 総長列席セラル

十月十一日 日曜日 曇

- 一、国鉄本日ヨリ二十四時制採用

十月十二日 月曜日 晴

- 一、学術綜合講演事務ニツキ文部省科学課理事官須川義弘氏来学教官食堂ニ於テ昼弁当接待（四人）
- 一、京都高等工芸学校教授藤野清久氏本学教授ニ任ゼラル

十月十三日 火曜日 晴

- 一、有浦庶務課長日本学術協会大会公開講演会開催打合ノ為奈良女子高等師範学校へ出張
- 一、書記官帰学

十月十四日 水曜日 晴

- 一、日本学術協会大会事務ニ付庶務課長以下夜勤
- 一、福原事務官医院兼務ヲ命ゼラル

十月十五日 木曜日 晴

- 一、日本学術協会大会開催準備

十月十六日 金曜日 曇小雨

- 一、靖国神社臨時大祭ニ付休業ノ上学生代表ヲシテ京都霊山護国神社ニ

参拝セシム

尚天皇陛下御親拝ノ時刻午前十時十五分ヲ期シ各々在所ニ於テ一分間
黙禱セシムルコトセリ

一、午后一時ヨリ日本學術協會第十八回大会開催

開会式、授賞式、総会、其後永井雄三郎氏ノ特別講演、四時半ヨリ大
会出席者ヲ島津源藏氏茶会ニ招待

一、文部省學術綜合講演会ノ件ニ付本田科学課長、酒井督学官、横溝、
山本属及植田科学官補来学（夜八新ニテ接待）

一、華北政務委員会実業部長王蔭泰氏、同秘書及北支開発調査局杉田禎
一氏来学紅茶接待

十月十七日 土曜日 雨

一、神嘗祭

本日午前十時ヲ期シ各自在所ニ於テ神宮ヲ遙拝セシムルコトトス

一、前日ニ引続キ午前中学会開催 午後文部省學術綜合講演会
夜六時ヨリ祇園中村楼ニ於テ懇親会開催

十月十八日 日曜日 晴

一、本日ヲ以テ學術協會大会終了

十月十九日 月曜日 晴

一、學術大会出席者各班ニ分チ見学

一、比島軍政顧問村田省藏氏外三名来学

一、國際文化振興会ノ委嘱ニヨリ第二回日・仏印交換教授トシテ文学部
梅原教授仏領印度支那へ出張発令セラレタリ

一、月曜講義

十月二十日 火曜日 晴

一、同学会主催ニテ新入学生歡迎会開催（午后六時ヨリ法経第四教室ニ
於テ）

十月二十一日 水曜日 晴

一、特記事項ナシ

十月二十二日 木曜日 晴

一、鬼束淳哉（医）鈴木成高（文）各助教授任用発令

十月二十三日 金曜日 晴

一、理学部桑田義備教授退官発令

十月二十四日 土曜日 曇

一、午前十時ヨリ緊急事項ニ付学部長会議開催
一、鐘江書記官和歌山演習林へ出張

十月二十五日 日曜日 晴

十月二十六日 月曜日 晴

一、住友本社北川常務理事来学総長二面会

一、月曜講義

一、文学部副手佐藤長西藏文化ノ研究ノ為滿二箇年中華民国ニ在外研
究ヲ命セラル

十月二十七日 火曜日 晴

一、午前十時ヨリ尊攘堂祭典執行

午後二時ヨリ故品川氏墓参祭ヲ行ヒ、沢瀉図書館長長崎司書官有浦庶務課長、金子氏参拜

一、書記官婦学、福原事務官医院兼務ヲ免ゼラル

一、西川令吉書記事務官ニ任ゼラル

一、海軍技師増本大吉本学教授ニ兼任（工学部勤務）

十月二十八日 水曜日 晴

一、南太平洋海戦及第二次ソロモン海戦以後南太平洋海戦直前マデノ戦果発表（二十七日午後八時三十分大本営）

一、行政簡素化、大東亜省設置等本日ノ閣議ニ於テ決定セラレタリ

一、ボルネオ方面陸軍最高指揮官前田利為中将九月五日陣歿ノ旨発表

一、小島祐馬元教授本学名誉教授ノ名称ヲ授ケラル

一、人文科学研究所書記上島竹三郎本学事務官ニ任ゼラル（医院勤務）

一、事務官西川令吉依願本官ヲ免ゼラル

十月二十九日 木曜日 晴

一、岡崎ニ於テ京都府主催慰霊祭執行総長代理トシテ秋田書記参列、外

ニ学生代表参列セリ

一、評議会開催 会終了後部局長会議引続キ学部長会議アリ

十月三十日 金曜日 晴

一、学制頒布七十年記念日ニ付国旗掲揚ス

一、午前十一時ヨリ明治節拝賀式ニ関スル打合

一、本日畏クモ天皇陛下ニハ文部大臣ヲ宮中ニ召サセラレ御沙汰ヲ下シ

給ハリタリ

【新聞記事貼付】

宮内省発表

学制頒布七十年ニ付左ノ御沙汰ヲ文部大臣ニ賜ヒ十月三十日宮中ニ於テ宮内大臣ヲシテ伝達セシメラレタリ

皇祖考学制ヲ頒布シ給ヒシヨリ茲ニ七十年学芸大ニ興リ教化治ク行ハレ以テ今日ノ昌運ヲ開ケリ

朕深ク之ヲ懌フ

我国今や曠古ノ難局ニ際会セリ時艱ヲ救済シ皇基ヲ振起スルハ教学ニ須ツ所多シ其任ニ当ル者宜シク銳意励精国民精神ノ発揚ト學術技芸ノ振興トニ力ヲ致シ撥乱反正進ンテ世界ノ文化ニ寄与セムコトヲ期スヘシ

一、国民医療法施行規則（厚生省令第四十八号）公布

十月三十一日 土曜日 晴

一、午前十一時ヨリ庶務課長室ニ於テ明治節ニ関スル打合

庶務課長、山本主事、秋田、水野、小川、柴田、林田各書記出席

一、各学部一回生ニカ、ル報国隊員防火訓練ヲ実施シ消防署ノ指導ヲ受ケシム尚本訓練一日モ実施

十一月一日 日曜日 曇

一、大東亜省官制及行政簡素化ニ伴フ各種勅令公布セラル

尚大東亜大臣ハ國務大臣タリシ青木一男氏之ニ任ゼラレタリ

一、官庁執務時間一時間延長セラル

一、文部省機構改革ニヨリ幹部ノ異動左ノ通発表

【新聞記事貼付】

文部省

◇…大臣官房

兼資料編修課長(文書課長如故) 清水虎雄

◇…総務局

局長(一)(教学局長官) 藤野恵

総務課長兼考査課長(専門学務局学務課長) 伊藤日出登

渉外課長(文部事務官) 久保田藤磨

調査課長(教学局庶務課長) 中根秀雄

資料課長(文部事務官) 山崎高

◇…専門教育局

局長(二)(専門学務局長) 永井浩

大学教育課長(青年教育課長) 西崎恵

専門教育課長(商工教育課長) 辻田力

監理課長(学芸課長) 剣木亨弘

◇…国民教育局

局長(一)(普通学務局長) 額綱弥三

総務課長(初等教育課長) 久尾啓一

青少年教育課長(社会局指導課長) 里見富次

(師範教育、中等教育各課長はもとの通り)

◇…教学局

局長(一)(教学局指導部長) 近藤寿治

(企画、思想、指導各課長はもとの通り)

◇…科学局

局長(二)(社会教育局長) 生悦住求馬

企画課長(科学課長) 本田弘人

施設課長(保存課長) 青戸精一

◇…体育局

総務課長兼勤労課長(訓練課長) 石井通則

振興課長(体育運動課長) 北沢清

◇…図書局

総務課長(農業教育課長) 高瀬五郎

◇…教化局

局長(一)(宗教局長) 阿原謙蔵

総務課長(図書局総務課長) 松下寛一

宗教課長(宗務課長) 吉田孝一

文化施設課長(社会局文化施設課長) 小山隆

十一月二日 月曜日 晴

一、午前十時ヨリ学部長書記室ニ参集シ書記官ヨリ重要書類ノ手交アリ

一、午后五時ヨリ農学部教官懇親会ヲ教官食堂ニ於テ開催

一、式場設備(今回ヨリ学生席ノ椅子廃止ス)

十一月三日 火曜日 晴

一、午前九時ヨリ明治節拝賀式挙行

出席者 職員一五四名 学生六三七名 (式終了後学部長会議)

祝賀会場ニ於ケル本学万歳ハ大藤名誉教授

一、農学部主催農学祭開催各研究室ヲ公開一般市民ノ参観者多数ニシテ

盛会ナリキ

一、同学会主催学生ノ運動会開催

十一月四日 水曜日 晴

一、成人公民教育講座開講

南方の地政学 文学部 小牧教授

一、総長東上

一、東北帝国大学総長来学総長二面会

一、京城帝大事務官（庶務課長）岡部甲子雄氏来学昼食弁当接待

十一月五日 木曜日 晴

一、成人公民教育講座

南方の地政学（二） 文学部 小牧教授

一、清浦奎吾伯薨去

一、有浦庶務課長高等官五等二階叙セラレタリ

十一月六日 金曜日 晴

一、午后三時ヨリ同学会文化部主催講演会（法経第二）

「日本人の遺伝」 理学部 駒井卓教授

一、成人公民教育講座

世界戦争の経済的考察 経済学部 谷口教授（本日ヨリ三日間）

一、午后三時ヨリ化学研究所ノ会議（大会議室）

一、午后五時ヨリ教官食堂ニテ燃料化学教室ノ晚餐会

一、本年十二月二十四日第八十一帝国議会召集ノ詔書公布セラル

十一月七日 土曜日 晴

一、羽田総長帰学

一、帝国美術院会員、京都市立絵画専門学校校長川村万蔵氏逝去セラル

十一月八日 日曜日 曇

一、フランス政府ハアメリカ政府ト国交断絶ス

十一月九日 月曜日 晴

一、羽田総長早退セラル

十一月十日 火曜日 晴

一、成人公民教育講座

日本仏教の性格 文学部 羽溪教授

一、武藤甲二本学助教授ニ任ゼラル、農学部勤務

十一月十一日 水曜日 晴

一、成人、公民教育講座 前日ニ引続キ羽溪教授第二回目

一、法経第二教室ニ於テ午后三時ヨリ第三回文化講義開催

一、午后六時ヨリ法経第一教室ニ於テ同学会映画部主催ニテ映画ノ会開

催

一、文学部落合太郎教授文学部長ニ補セラレ、成瀬清教授文学部長ヲ免

ゼラル

十一月十二日 木曜日 晴

一、午后一時評議会、終ッテ建築委員会及学部長会議

一、午后三時ヨリ特別講演海軍報道部第一課長平出海軍大佐ノ講演アリ

一、成人、公民教育講座

大東亜仏塔史瑣談 工学部 村田教授

（幻灯使用）

十一月十三日 金曜日 晴

一、成人、公民教育講座

食糧問題ト日本農 農学部 大槻教授

十一月十四日 土曜日 雨

- 一、成人、公民教育講座 大槻教授第二回目
- 本日ヲ以テ終了ニ付有浦庶務課長ノ挨拶アリ

十一月十五日 日曜日 曇

- 一、法経第四、同第五演習室ニ於テ土木学会関西支部大会開催

十一月十六日 月曜日 曇

- 一、総長諮詢ニカ、ル重要事項ニツキ各教授ヨリ答申アリタリ午前九時開始午後五時半終了右結了後学部長会議
- 一、技術院伊藤参技官、根岸囑託、宮山参技官補来学工学研究所及下鴨氣象学研究所ヲ視察、昼食并当接待
- 一、有浦庶務課長從六位ニ敘セラル

十一月十七日 火曜日 晴後雨

- 一、特記事項ナシ
- 文部省小川教学官来学昼并当接待

十一月十八日 水曜日 晴

- 一、第三次ソロモン海戦戦果発表

十一月十九日 木曜日 晴

- 一、慣行ニ依ル総長候補者答申手續結了ノ処現任総長引続キ在位ノ事ニ決定致シタルニ付其ノ旨各学部長ニ対シ書記官ヨリ依命通牒セラレタ

リ尚午後四時書記官室ニ於テ各新聞社ニ発表セラレタリ

- 一、午后一時ヨリ大会議室ニ於テ二十六日ノ分ヲ繰上ゲ臨時評議会開催通知セル処俄ニ総長病氣欠勤ニ付協議会ヲ小川医学部長（長老部長）座長ノ下ニ開催

- 一、夜庶務課長東上セリ（事務打合）

十一月二十日 金曜日 晴

- 一、大本營設置五週年記念日
- 一、愛国百人一首情報局ヨリ発表アリ
- 一、朝鮮同胞ニ徴兵制閣議決定

十一月二十一日 土曜日 晴

- 一、本年度産米第二回予想收穫高六千七百三十六万九百石ニシテ第一回（九月二十日）ニ比シ五万九千六百九十石増ト発表（農林省）
- 一、午后一時ヨリ法経第四教室ニテ京都哲学会開催

十一月二十二日 日曜日 晴

- 一、有浦庶務課長東上中ノトコロ本日帰学

十一月二十三日 月曜日 晴

- 一、新嘗祭
- 一、明治神宮ニテ大政翼賛会主催新穀感謝祭ヲ執リ行ハセラレタリ

十一月二十四日 火曜日 晴

- 一、本日ノ俸給日ヨリ戦時勤勉手当（一割）及増額ノ家族手当支給
- 一、昭和十八年度在学年限臨時短縮ノ件発表

一、齊藤大吉名誉教授勲一等二級セラレ本日中部軍司令部ニ於テ伝達式
執行ニ付秋田書記隨行セリ

一、書記官大阪市へ出張

一、午後三時ヨリ法経第三教室ニテ文化講義柳田謙十郎氏ノ講演アリ

十一月二十五日 水曜日 晴後小雨アリ

一、元駐濠公使河相達夫氏来学特別講演トシテ座談会ニ出席セラル

一、文部省体育局振興課長北沢清氏来学セラル

河相氏ト共ニ昼食弁当接待

一、午後二時技術院参技官川守田孝吉氏来学工学研究所（主トシテ航空
方面）ヲ見学

一、夜羽田総長東上

一、昭和十八年度臨時短縮ニ関スル件公布（省令六八号）

十一月二十六日 木曜日 晴

一、理学部湯川秀樹教授東大教授ニ兼任セラル

十一月二十七日 金曜日 晴

一、午後三時教官食堂ニ於テ住宅営団大阪支所ヨリ係員出張新築家屋ノ
払下ゲ並ニ貸付ノ件ニ付説明アリ

十一月二十八日 土曜日 晴

一、医学部長及医専主事更迭

前任者 小川睦之輔

後任者 舟岡省五

一、午后零時半ヨリ本部玄関前ニ於テ報国隊隊長任命式挙行

一、総長帰学

一、農場助手橋本太良陸軍技師ニ任ゼラル

十一月二十九日 日曜日 晴

十一月三十日 月曜日 晴

一、農学部長及臨時附属医専主事更迭

前任者 近藤金助

後任者 大杉繁

医専主事

小川睦之輔

舟岡省五

一、午前十時ヨリ大会議室ニ於テ學術振興会第三十一委員会（合成ゴム）
開催

一、本日ヨリ十二月五日迄国民勤勞報国協力令ニ依リ報国隊出勤

一、農学部黒正巖教授、春川忠吉教授評議員ヲ命ゼラレ同榎本中衛教授、
木原均教授評議員ヲ免ゼラル

十二月一日 火曜日 曇（小雨）

一、午後五時ヨリ理学部甲寅会役員会開催（教官食堂）

一、本学学生生徒国民貯蓄組合規約ヲ告示セリ

十二月二日 水曜日 曇

一、前京都聯隊区司令官西田祥実少将転任挨拶ノ為来学

一、京都高等工芸会計主任安田捨次郎書記事務打合ノ為来学

十二月三日 木曜日 晴

一、午後一時ヨリ庶務課長室ニ於テ十二月八日挙行スベキ詔書捧読式ニツキ打合せ開催

庶務課長、秋田、水野、塚本書記、山本学生主事、柴田書記、林田書記

十二月四日 金曜日 雨後曇

一、総長東上

十二月五日 土曜日 晴

一、高知県後免西町岡上広吉氏仏像鑑定依頼ノ為有浦庶務課長ヲ訪問美学教室ヲ紹介ス

一、理学部助教教授芦田讓治教授ニ任ゼラル

十二月六日 日曜日 雪

十二月七日 月曜日 晴

一、午後五時半法経第一教室ニ於テ同学会主催ニテ大東亜戦争一周年記念講演ト映画ノ会ヲ開催

講演「その日の紐育を語る」大毎紐育支局長 西島捨丸
映画「海軍秘蔵映画」舞鶴鎮守府所蔵

十二月八日 火曜日 晴

一、午前九時運動場ニ於テ米国並ニ英国ニ対スル宣戦ノ詔書捧読並ニ学生分列式挙行セリ 十時終了

総長、各学部長ハ自動車ニテ総長室ニ帰りテ休憩十時五十分出發平安

神宮ニ参拝、代表学生ハ学生課員引率同神宮ニ到着一同打揃ヒ十一時ヨリ祈願

一、午前十一時五十九分ヨリ正午迄各自在所ニ於テ戦捷並ニ出征将兵ノ武運長久ヲ祈願シ且護国ノ英靈ニ対シ感謝スルノ意ヲ籠メテ黙禱シ神明ニ祈念ヲナセリ

一、医学部木村廉教授評議員ヲ命ゼラル (舟岡教授後任)

十二月九日 水曜日 晴

一、京都高等蚕糸学校戦歿者慰霊祭執行セラル水野書記参列ス

十二月十日 木曜日 晴

一、評議会開催

十二月十一日 金曜日 晴

一、天皇陛下ニハ今朝帝都ヲ御発輦京都皇宮ニ御駐泊遊バサレタリ

十二月十二日 土曜日 晴

一、天皇陛下伊勢神宮ニ御親拝再ビ京都皇宮ニ御駐泊遊バサレタリ
一、書記官賜暇

十二月十三日 日曜日 晴

一、天皇陛下今朝京都皇宮御出門帝都ニ還幸遊バサレタリ
尚本学代表学生ハ市内御沿道ニ於テ奉送申上ゲタリ

一、昨夜十二時頃消防署ヨリノ要求ニ依リ深夜ニ学生ヲ集メ両消防署ニ配属セシム

一、天皇陛下行幸ニ関シ宮内省ヨリ左ノ通り発表アリタリ

【新聞記事貼付】

宮内省告示第二十九号

天皇陛下神宮御参拝ノ為本月十一日御発輦京都府下並三重県下
へ行幸今十三日還幸アラセラレタリ

昭和十七年十二月十三日 宮内大臣 松平恒雄

十二月十四日 月曜日 晴

一、書記官賜暇

一、午前九時東本願寺ニ於テ京都衛戍地各部隊合同慰霊祭執行セラレ庶
務課長参列

一、本庄大阪商大学長来学夜瓢亭ニテ接待

十二月十五日 火曜日 晴

一、本年八月十一日戦死セル文学部嘱託大平四郎ノ遺骨凱旋ス

一、書記官東京市へ出張

一、貯蓄組合ニ関シ文部省ヨリ通牒アリタルニ付本学国民貯蓄組合実行
方法ヲ改正

十二月十六日 水曜日 晴

一、判任官年末賞与金支給セラル(十日発令)

十二月十七日 木曜日 晴

一、書記官帰学

一、応召者後援会寄附金(十二月分)取纏メノコトニ決定各部局へ通知
セリ

十二月十八日 金曜日 曇

一、曩ニ陸軍司政長官ニ任ゼラレタル郡場寛博士昭南植物園長ニ就任本
日出発ノ趣ナリ

一、弓削商船学校書記加藤猪三郎本学書記ニ任ゼラレ会計課勤務トナル
(主計掛)

十二月十九日 土曜日 晴

一、教練査閲準備

十二月二十日 日曜日 晴

十二月二十一日 月曜日 晴

一、昭和十七年度第二次教練査閲執行セラル、査閲官ハ京都師団兵務部
長柏少将ナリ随員鈴木大佐、広大尉

八時二十分査閲官到着直ニ総長室ニ案内少憩後運動場へ移動、正午農
学部会議室ニ於テ昼食弁当ヲ供ス(学生食堂迄円弁当)

本日総長ハ八時半出勤セラル

夜六時ヨリ榮友会館ニ於テ査閲官招待晚餐会開催(料理四■)
一、午后五時訓練空襲警報発令、同八時解除

十二月二十二日 火曜日 晴

十二月二十三日 水曜日 晴

十二月二十四日 木曜日 晴

一、午后一時評議会開催

一、時野谷元文学部教授ノ葬儀執行セラル

十二月二十五日 金曜日 曇

一、大正天皇祭

十二月二十六日 土曜日 晴

一、庶務課員一同課長ノ招待ヲ受ク

一、帝国議會開会

十二月二十七日 日曜日 晴

十二月二十八日 月曜日 晴

一、御用納メ

一、午后一時ヨリ学部長會議休暇中ニ於ケル職員勤務ニ関シ協議セリ

一、喜多源逸、鳥養利三郎、戸田正三、小田川達朗、川村多実ニ各教授

科学技術審議会委員被仰付

十二月二十九日 火曜日 晴

一、秋田、寺田書記出務

十二月三十日 水曜日 晴

一、佐藤書記、田中囑託出務

十二月三十一日 木曜日 晴

一、水野書記、城崎囑託出務

昭和十八年

一月一日 金曜日 晴

一、午前九時ヨリ新年拝賀式ヲ挙行、職員三二六名学生一六八名出席セリ、祝賀会ニ於ケル万歳ハ西内名誉教授

一、式後小川、塚本書記、福山囑託勤務

一、本日ヨリ日本銀行ノ業務時間ヲ土曜日ヲ除キ午后四時迄ニ延長セリ

一月二日 土曜日 晴

一、片山書記、森雇出務

一月三日 日曜日 晴

一、宮谷書記、速水雇出務

一月四日 月曜日 晴

一、御用初メ

一月五日 火曜日 晴

新年宴会

一月六日 水曜日 晴

一月七日 木曜日 晴

一月八日 金曜日 晴夜雪

一、佐々木良任学生主事補学生主事ニ任ゼラル

一月九日 土曜日 晴

- 一、佐々木良任学生主事依頼本官ヲ免ゼラル
- 一、有浦庶務課長本日ヨリ賜暇
- 一、学生課中村書記学生主事補二任ゼラル 書記兼官如故

一月十日 日曜日 晴

- 一、羽田総長東上

一月十一日 月曜日 晴

- 一、工学部石原藤次郎助教教授二任ゼラル
- 一、田部井和陸軍技師助教教授二任ゼラル
- 一、経済学部部長更迭 前任 八木芳之助教教授 後任 谷口吉彦教授

一月十二日 火曜日 晴

一月十三日 水曜日 晴

一月十四日 木曜日 晴

- 一、西崎文部省大学教育課長来学
- 一、大阪商大学長本庄栄治郎氏来学瓢亭ニテ接待

一月十五日 金曜日 晴

- 一、大和上市島田正治氏、藤門直藏氏外一名寄附金ノコトニツキ来学
- 一、夜大津八新ニテ文部省西崎課長接待

- 一、岸春雄助教教授本官ヲ免ゼラル

一月十六日 土曜日 晴

- 一、各務原陸軍病院ヨリ軍医将校七名結核研究所見学

一月十七日 日曜日 晴

- 一、本日官報号外発行セラレ大蔵省告示ニヨリ製造煙草定価改正

一月十八日 月曜日 晴

- 一、書記官東上
- 一、民族研究所官制公布セラレ高田保馬教授所員ニ兼任セラル
- 一、繊維品及其ノ点数指定ノ件改正十九日ヨリ実施ノコトナリタリ

一月十九日 火曜日 晴

- 一、布施市日本大学大阪専門学校ニ於テ文部省体力局主催学校防空訓練視察並ニ研究会開催ニツキ松本学生主事補及水野書記出席

一月二十日 水曜日 晴

- 一、東京帝国大学庶務課伊藤事務官来学

一月二十一日 木曜日 晴

- 一、午后一時評議会開催、引続キ学部長会議ヲ開キ防空ノ件ニツキ協議會計課長ヨリ学生貯蓄組合、職員貯蓄組合ニツキ説明アリ尚書記官ヨリ瓦斯節約ニツキ協力方懇談ス

- 一、元理学部教授桑田義備氏本学名誉教授ノ名称ヲ授ケラル
- 一、中等学校令及高等学校令、専門学校令中改正ノ件公布セラル

一月二十二日 金曜日 曇後雨

一、午後五時訓練警戒警報発令

〃 五時五十分訓練空襲警報発令

〃 六時四十分訓練空襲警報解除同七時三十分訓練警戒警報解除

一、医院勤務堀藤太郎書記本日午前三時四十分死去

一、舞鶴海軍工廠長小沢仙吉中将来学予定ノトコロ取消

一月二十三日 土曜日 晴

一、午前十時半庶務課員全員課長室ニ参集課長ヨリ各掛ノ事務連絡ニ関スルコト並ニ課員ノ懇親資金積立ニ付協議アリ

一月二十四日 日曜日 晴

一月二十五日 月曜日 晴

一月二十六日 火曜日 晴

一、学術協会大会事務ニ付庶務課長、佐藤書記高等工芸ニ出張

一月二十七日 水曜日 晴

一、羽田総長文部省教学局参与被仰付

一月二十八日 木曜日 晴

一、大阪帝国大学高田亮平教授本学教授ニ任ゼラル(工学部)

一、法学部山田正三教授退官発令

一、植村司書東京帝大へ出向ヲ命ゼラル

一月二十九日 金曜日

一、東京帝大進藤會計課長、東北帝大金倉学生課長、同坂本学生主事補来学ニ付接待

一月三十日 土曜日 曇

一、書記官奈良県吉野郡へ出張

一月三十一日 日曜日 雪

一、総長東上

二月一日 月曜日 晴

一、午前十時大本営ヨリレンネル島沖海戦戦果発表アリ

一、本日ノ官報ヲ以テ理学部航空物理学講座ニ伴フ官制改正ノ件公布

一、長崎医大事務官山本武俊氏、横浜高工事務官佐藤房藏氏来学

一、書記官帰学

二月二日 火曜日 晴

一、総長帰学

二月三日 水曜日 晴

一、舟岡教授学術研究会議会員被仰付、小川教授同会員ヲ免ゼラル

一、会計課佐々木書記助手兼書記ニ任ゼラル

一、同 千種書記人文科学研究所助手兼本学書記ニ任ゼラル

二月四日(節分) 木曜日 晴

一、午後一時ヨリ評議会 后瓦斯委員会開催
一、医学専門部学徒野外演習実施打合せノ為浜島大佐以下係員相楽郡相楽村へ出張

二月五日 金曜日

二月六日 土曜日 晴

二月七日 日曜日 晴

二月八日 月曜日 晴

一、午前十一時ヨリ紀元節拝賀式打合せ
総テ従来通ナルモ「マイクロホン」ハ故障多キニ鑑ミ取止ムルコトノ説アリタルモ総長ノ意見ニヨリ設備スルコトナリタリ

二月九日 火曜日 晴

一、書記官大阪市へ出張
一、教学局嘱託頼芳樹諸学振興委員会教育学特別学会ノ件ニ付来学セリ

二月十日 水曜日 晴

一、大阪帝国大学総長真島利行氏新任挨拶ノ為来学総長、書記官、医、工、理三学部長ト午餐ヲ共ニシ午後一時二十分辞去（随行学生主事補松田栄一）

一、陸軍中将山下奉文、同岡部直三郎、同藤江惠輔陸軍大将ニ栄進ノ旨陸軍省ヨリ発表アリ

【欄外】藤江大将ハ元本学配属将校ナリ

一、南山城地方ニ於テ医専生徒野外演習実施 浜島大佐指導
一、法学部大橋光雄教授依頼本官ヲ免ゼラル

二月十一日 木曜日 晴

一、午前九時ヨリ紀元節拝賀式挙行教職員一四八名学生四四〇名出席セリ尚十一時ヨリ総長、学部長及代表学生（医専ヲ含ム）十六名平安神宮ニ参拝 必勝祈願ヲナセリ（学生ハ井上学生主事補引率）
祝賀会場ニ於ケル本学万歳ハ斉藤名誉教授ノ発声ニ依ル

一、伏見練兵場ニ於テ大型焼夷弾ノ実験アリ 宮谷書記参観
一、佐藤書記東京市へ出張

一、日・仏印交換教授トシテ仏印ニ出張中ノ文学部梅原教授帰学セラル

二月十二日 金曜日 晴

一、四月ヨリ施行セラル官制改正説明資料文部省へ提出ス

二月十三日 土曜日 晴

一、午後一時ヨリ市内梅屋国民学校ニ於テ京都府警察部主催特別総合防空訓練実施打合会開催ニ付光田学生主事、水野書記出席ス

二月十四日 日曜日 晴

二月十五日 月曜日 晴

一、総長東上

一、瓦斯消費ノ件ニ付医、工、理、農各学部長参集シ書記官ト協議セリ

二月十六日 火曜日 晴

一、佐藤書記帰学

二月十七日 水曜日 晴

一、午前十時本山本願寺大師堂ニ於テ大谷光演氏ノ葬儀執行セラレ総長代理トシテ庶務課長列席

一、川端警察署ニ於テ午后一時特別綜合防空訓練ノ件ニ付打合水野書記、西山囑託及中田囑託出席

一、平賀東京帝国大学総長本日午前八時五十五分薨去セラル(特ニ親任官ノ待遇ヲ賜フ)(特ニ男爵ヲ授ケラレ旭日大綬章ヲ授ケラル)

一、総長帰学

一、東京文理大助教授荒木源太郎本学助教授兼東京文理大助教授ニ任ゼラル

二月十八日 木曜日 雨

一、評議会開催予定日ノトコロ議題ナキ為開催セラレズ

一、午后一時ヨリ防衛団長ノ会議ヲ開催本学防衛要員ノ配備ノ件及防空訓練ノ件ニ付協議セリ

「本学ニ於テハ第一種、第二種配備ノ区分ヲ為サズ警戒警報発令アリタルトキハ団員ノ三分ノ一乃至六分ノ一ヲ出動スルコト」

二月十九日 金曜日 晴

二月二十日 土曜日 曇小雪

一、京都市、東宇治町一円ニ対シ午前二時訓練警戒警報発令サル、同五時訓練空襲警報発令、同六時三十分訓練空襲警報解除、同七時訓練警戒警報解除サル、右訓練ニ際シ本学防衛団員一八四〇名参集シ其ノ応

召上京ハ川端警察署ニ報告ス、尚附属医院ハ川端警察署長ニヨリ特別訓練地域ニ指定サル

二月二十一日 日曜日 曇後晴

二月二十二日 月曜日 晴

一、前東大総長平賀男葬儀参列ノタメ総長東上、水野書記新潟及仙台市へ出張

一、本日十七時次ノ通り大本営ヨリ発表サル

「帝国陸海軍部隊ハ仏国政府ノ諒解ノ下ニ二月二十一日広州湾仏国租借地ニ進駐セリ」

一、米子地方航空機乗員養成所駒宮政次郎教諭来学、理学部物理学教室見学

二月二十三日 火曜日 晴

一、午前十時三十分陸軍科学々校長渡辺陸軍中将随員串戸少佐挨拶旁々依託学生修学状況視察ノタメ来学、総長室ニ於テ工、理両学部長、書記官ト会談、正午依託学生七名ヲ加ヘテ午餐ヲ共ニシ午後一時三十分辞去

一、平賀前東大総長学葬、午後一時半ヨリ東大講堂ニ於テ執行サル、羽田総長参列

一、大本営二十三日十七時発表

帝国海軍航空部隊ハ二月二十一日長駆ニュー・ヘブライズ諸島エスピリツ・サント島ノ在泊艦艇及ビ軍事施設ニ夜間攻撃ヲ加ヘ敵駆逐艦一隻ヲ轟沈一隻ニ大火災ヲ生セシメ陸上施設ニモ損害ヲ与ヘタリ我方被害ナシ

二月二十四日 水曜日 晴

- 一、理学部助手北村四郎、助教授（理学部勤務）ニ任ゼラル
- 一、理学部助教授田中正三、教授（理学部勤務）ニ任ゼラル

二月二十五日 木曜日 曇

- 一、総長帰学

二月二十六日 金曜日 晴

- 一、法学部長牧健二教授依頼法学部長ヲ免ゼラレ、同教授渡邊宗太郎教授法学部長ニ補セラル

- 一、帝国在郷軍人会京大分会ノ査閲ヲ午前九時ヨリ査閲官村井陸軍大佐ニヨリ農学部運動場ニ於テ執行サル、午後四時終了

- 一、田島教授評議員ヲ免ゼラレ田岡教授評議員ヲ命ゼラル

二月二十七日 土曜日 晴

- 一、大阪帝国大学総長新任挨拶答礼ノタメ総長大阪市へ出張、庶務課長随行

- 一、化学研究所助教授隅田武彦依頼本官ヲ免ゼラル

二月二十八日 日曜日 晴

- 一、医院嘱託堀礼造本学書記ニ任ゼラル（医院勤務）

三月一日 月曜日 雨

- 一、本日ヨリ六日間海軍軍事教習実施 講師中村一夫少将
- 一、午後三時ヨリ法経第四教室ニテ同学会文化部主催「戦争の現実と論理」

ト題シテ三木清氏ノ講演アリ
一、水野書記帰学

三月二日 火曜日 晴

三月三日 水曜日 晴

- 一、午後五時中村海軍少将接待
- 一、配属将校佐藤為徳大佐ハ曩ニ少将ニ進級某要職ニ就任セラルルコトトナリ本日二十時四分京都駅発ニテ赴任セラレタリ

- 羽田総長ヲ初メ学部長其ノ他職員多数ノ見送りアリタリ

- 一、学生主事補井上雅夫学生主事ニ任ゼラル（六等）

三月四日 木曜日 晴

- 一、評議会開催

- 一、名古屋帝大理学部書記、長谷靈樹氏来学

三月五日 金曜日 晴

三月六日 土曜日 晴

- 一、地久節、国旗掲揚ス

三月七日 日曜日 晴

三月八日 月曜日 晴

- 一、総長引籠
- 一、昭和十六年勅令第九二四号大学学部等ノ在学年限又ハ修業年限ノ臨

時短縮ニ関スル件中改正

- 一、大阪帝大教授友近晋、本学教授ニ任ゼラル、理学部航空物理学講座担任ヲ命ゼラル

師範教育令改正

平野名誉教授大阪市立都島高工校長事務取扱ヲ命ゼラル

三月九日 火曜日 晴

- 一、午后三時ヨリ同学会文化部主催ニテ「歴史的現状に就て」ト題シ文学部木村教授ノ講演アリ

三月十日 水曜日 晴

- 一、陸軍記念日(国旗掲揚)
- 一、法学部助手中塚哲、助教授ニ任ゼラル
- 一、京都府保安課遠藤警部学内瓦斯消費状況視察ノ為来学夜新三浦ニテ接待

原田助教授勅任待遇

新任京都憲兵隊長野口正雄中佐着任

三月十一日 木曜日 晴

- 一、総長東上
- 一、原田隆康助教授依頼本官ヲ免ゼラル

三月十二日 金曜日 晴

- 一、第三陸軍技術研究所長立花章一陸軍少将科学利用ニ関スル打合ノ為来学工学部、理学部ヲ見学セリ
- 本部階上ニ於テ昼食弁当接待

- 一、内田祥三東大教授東大総長ニ任ゼラル

- 一、藥事法公布(法律第四十八号)

東北帝大磯村書記来学セリ

【欄外】

中等学校令改正ニ関スル文部大臣訓令

三月十三日 土曜日 晴

- 一、各官庁国旗掲揚ニ関シ三月九日官文三〇号ヲ以テ自今 皇后陛下御誕辰 皇太后陛下御誕辰並ニ 皇太子殿下御誕辰ニハ各官庁国旗ヲ掲揚シ奉祝ノ意ヲ表スベキ旨文部次官ヨリ通牒アリタリ

三月十四日 日曜日 晴

- 一、国民同和日(五ヶ条ノ御誓文奉戴日)
- 一、総長帰学
- 一、医学部副手穴戸正航空医学ノ研究中午后三時頃誤テ感電夕刻遂ニ死去ス(講師ニ進級)

三月十五日 月曜日 晴

- 一、宮谷書記横浜市、金沢市へ出張
- 一、福山囑託病氣ノ為二月六日より引続キ欠勤中ノトコロ本日ヨリ出勤セリ
- 一、台北帝国大学ニ南方人文研究所並ニ南方資源科学研究所附置ノ官制公布
- 一、文部省令第八号ヲ以テ臨時教員養成所等卒業者服務規則公布四月一日ヨリ施行セラルルコトナリタリ

三月十六日 火曜日 晴

- 一、伊沢北支開発調査局長来学、階上応接室ニテ接待
- 一、菊池文部次官親任官ノ待遇ヲ賜フ

三月十七日 水曜日 晴

- 一、午后三時ヨリ法経第一教室ニ於テ「私の観たる米国」ト題シ前駐米大使海軍大将野村吉三郎氏ノ講演アリ

三月十八日 木曜日 晴

- 一、森島庫太名誉教授薨去（授旭日重光章）
- 一、評議会
- 一、内閣顧問設置
- 一、書記官東上
- 一、経済学部石川興二教授文官分限令第十一条第一項第四号ニ依リ休職被仰付

三月十九日 金曜日 晴

- 一、京都、九州、大阪、名古屋各帝大総長参集懇談セラル、夜木屋町中村家ニテ接待

三月二十日 土曜日 雨

- 一、名古屋帝大総長人文、化研、工研各研究所視察セラル
- 一、文部省科学局属本山銀次、嘱託佐々田肇両氏来学
- 一、去ル十四日職務執行中死去シタル穴戸講師ノ葬儀ヲ内科講堂ニ於テ営マレタリ本学ヨリ花壺対贈呈ス
- 一、柳原英本学教授ニ任ゼラル（二等）

【欄外】

恩給法中改正

地方制度改正

各庁職員優遇令

同施行令

同施行規則公布

大東亜戦争ニ際シ召集セラレタル文官等ノ補欠及復帰ニ関スル件

陸海軍ニ召集セラレタル者ノ俸給支給ニ関スル件

三月二十一日 日曜日 晴

- 一、午后五時半ヨリ岡崎つるやニテ日高学生課長ヲ中心トシテ総長、学部長、本部高等官参集懇談会ヲ開催セラレタリ

三月二十二日 月曜日 曇

- 一、午前十一時ヨリ学部長会議開催
- 一、書記官帰学
- 一、日高学生課長第一高等学校教授ニ栄転
- 一、生産科学財団理事会開催
- 一、塚本書記岡山市、高知市へ出張

三月二十三日 火曜日 晴

- 一、物理探鉱財団理事会開催

三月二十四日 水曜日 曇

- 一、並河教授農場長ニ補セラル
- 一、今回第一高等学校教授ニ転任ノ日高前学生課長十時二十三分京都駅

発ニテ赴任

- 一、農学部菊池秋雄教授依頼本官ヲ免ゼラル
- 一、北大事務官高橋美登氏神宮皇学館大学事務官ニ栄転

【欄外】

金属回収本部官制公布

三月二十五日 木曜日 曇

- 一、農学部沼田大学教授司政長官ニ任ゼラル
- 一、本日ノ新聞紙ニテ警報^{〔マ〕}警報伝達ニ関シ左ノ通発表アリタリ

【新聞記事貼付】

変る警報伝達法 今後は『警戒』にもサイレン

内務省防空局廿四日午後十時発表 空襲警報および警戒警報の伝達方法を左記の通り改め四月九日から実施する

従来警戒警報は口頭または旗で伝達してゐたが四月九日からは三分間連続のサイレン吹鳴、または一点鐘、二点鐘の斑打によることになる▽警戒警報解除は従来通り口頭または旗で通達する▽空襲警報は八秒おいて四秒つつ十回サイレンを吹鳴するか、または警鐘を乱打する▽空襲警報解除は三分間のサイレン吹鳴で警戒警報と同様になる

一、財団法人体質科学研究会理事会開催

一、文部省石坂文部属ヨリ官制改正資料ノ件ニツキ電話アリ文書ヲ以テ回答ス

一、森島庫太名誉教授ノ葬儀、午后二時ヨリ薬物学教室ニ於テ執行セラル

一、坂井教学官来学

三月二十六日 金曜日 晴

- 一、京都府警察部ニ於テ学生報国隊防空補助隊ノ件ニツキ打合会開催ニツキ光田学生主事出席ス

三月二十七日 土曜日 曇

一、塚本書記帰学

- 一、第三学期ノ学校教練ハ五月二十九日迄実施スルコト、最高学年学生ノ学校教練査閲ハ五月二十六日より同三十一日迄ノ間ニ実施ノコトニ師団ト交渉セシ旨各学部長ニ通牒セリ

三月二十八日 日曜日 雨

三月二十九日 月曜日 晴

- 一、文部省教学局北浦理事官来学
- 一、東京帝大庶務課長石井勗氏外一人及文部省総務局調査課熊田文部属外一人来学
- 一、総長東上

三月三十日 火曜日 雨

- 一、東京及大阪市ニ防空空地^{〔マ〕}指定
- 一、戦時学徒体育訓練実施要綱決定
- 一、帝国教育会長ニ永井柳太郎氏就任セリ
- 一、佐藤書記本日ヨリ賜暇

三月三十一日 水曜日 雨

- 一、行政簡素化実施ニ伴フ官吏異動完了ノ旨発表

一、教学局部長堀池英一氏関東局在満教務部長ニ任ゼラレタリ

一、文部省教学官松本良彦本学学生主事ニ任ゼラル

一、年度末賞与、特別賞与発令

一、佐藤弥太郎教授演習林長ニ補セラル

四月一日 木曜日 曇

一、春期休業始

一、今回兵役法施行令中改正ニ依リ徴集延期ニ関スル規定改正セラレ本日ヨリ実施ノコトナレリ

一、長崎学生主事兼司書官高岡高商校長（二等）ニ任ゼラル

一、今木喬助教授台湾総督府糖業試験所技師（七等）ニ任ゼラル

四月二日 金曜日

一、総長帰学

四月三日 土曜日 曇（後、雨）

神武天皇祭

四月四日 日曜日 雨

一、午後九時卅三分警戒警報発令

四月五日 月曜日 晴

一、本学ニ於テ結核学会開催（午後一時ヨリ大会議室ニ於テ委員打合せ）

四月六日 火曜日 晴

一、年度末賞与、特別賞与支給

一、前日ニ引続キ学会開催

四月七日 水曜日 晴

一、千葉医大伊藤教授富士川文庫見学ノ為来学（図書館）

一、書記官東上

一、八木芳之助教授学生主事ニ兼任学生課長ヲ命ゼラル

一、結核学会本日ヲ以テ終ル

四月八日 木曜日 雨

一、支那事変功績調書ノ事務ニ付課員徹夜勤務

四月九日 金曜日 晴

一、午前十一時ヨリ学部長会議開催

一、午前八時五十七分京都駅着列車ニテ文部省永井専門教育局長入洛、高蚕、高工視察ニ付自動車貸与 夜中村家ニテ接待

（随行柏木囑託）

一、午後四時警戒警報解除

一、ソロモン方面フロリダ島沖海戦戦果発表

四月十日 土曜日 晴

一、書記官帰学

一、田中囑託長男稔久氏死去

一、春期休業終

四月十一日 日曜日 雨

四月十二日 月曜日 晴

一、午后一時学部長会議

一、京城帝大書記大崎克己氏事務視察ノ為来学

四月十三日 火曜日 晴

一、蒙古喇嘛僧一行本学医学部及医院見学セリ

一、田中囑託子息ノ告別式アリ

四月十四日 水曜日 晴

四月十五日 木曜日 晴

一、午后一時評議會開催

四月十六日 金曜日 晴

一、師範師範学校書記奥田鹿造氏外二人事務視察ノ為来学

一、午后五時於教官食堂工、理両学部教授懇談会

四月十七日 土曜日 晴

四月十八日 日曜日 晴

一、午后〇時二十五分訓練空襲警報発令同二時三十分解除

同時ニ警戒警報解除

四月十九日 月曜日 曇

一、総長会議ニ出席ノ為羽田総長ハつばめニテ東上

一、午后三時ヨリ法経第三教室ニ於テ海軍報道部第四課員海軍主計中尉

高戸顕隆氏ノ講演アリ

「実戦を語る」講演終了后教官食堂ニテ座談会

四月二十日 火曜日 晴

一、佐藤書記賜暇帰省中ノトコロ本日ヨリ出勤

四月二十一日 水曜日 晴

一、文部大臣官邸ニ於テ総長会議開催

一、二十日附ヲ以テ内閣一部改造昨夜十一時情報局ヨリ左ノ通発表アリ
タリ

【新聞記事貼付】

大東亜戦争勃発以来東条内閣は鋭意大東亜戦争完遂にむかつて邁進し、外赫々たる大戦果を挙げ大東亜其榮圈建設の基礎を着々と確立し、内国内政治経済体制の整備刷新に全力を集中し内外ともに必勝不敗の戦争態勢を確立し来つたが、今や世界戦局の動向ますます重大化せんとするに際し、ますます内閣を強化し、構想を新たにしてくるべき世界情勢に対処して万遺憾なからんことを期するため東条首相は第八十一議會終了後内外情勢に鑑み慎重に内閣改造の構想を練りつゝあつたところ、こゝにいよいよ電光石火内閣の大改造を断行する決意を固め内務大臣に翼賛会副総裁安藤紀三郎氏、外務大臣に駐華大使重光葵氏、農林大臣に翼賛会政務調査会長山崎達之輔氏、国務大臣に翼賛会総務大麻唯男氏、情報局総裁に元イタリア大使天羽英二氏をそれぞれ起用奏薦することゝし、なほ文部大臣は東条首相自ら兼摂することゝし東条首相は二十日午後九時半参内、天皇陛下に拝謁仰付けられ、この旨内奏、御裁可を仰いだのち同夜十時半親

任式を執り行はせられた、なお情報局では同日午後十一時左の如く発表した

情報局発表（二十日午後十一時）

任外務大臣 特命全權大使 重光葵

任内務大臣 国务大臣 安藤紀三郎

兼任文部大臣 内閣総理大臣

兼陸軍大臣 東条英機

任農林大臣 山崎達之輔

任国务大臣 大森唯男

任情報局総裁 天羽英二

夜中、親任式を御挙行

天皇陛下には二十日午後十時半鳳凰ノ間に出御、東条首相侍立のうへ重光外相、安藤内相、山崎農相、大森国务相の親任式を執り行はせられ各大臣に対し親任の勅語を賜ひ首相よりそれぞれ官記を伝達した。なほ東条兼撰文相の親任式も同時に執り行はせられた

四相の免官を発令

内閣改造に伴ひ左の如く発令された

外務大臣兼情報局総裁 谷正之

依願免本官並兼任

内務大臣 湯浅三千男

文部大臣 橋田邦彦

農林大臣 井野碩哉

依願免本官（各通）

文相近く専任

東条首相の文部大臣兼任は暫定的措置とみられ近く適当な機会

に専任文相が置かれることは必至とされてゐる
〔以下略〕

四月二十二日 木曜日 晴

一、前日ニ引続キ総長会議

一、群馬県知事村田五郎氏情報局次長ニ任ゼラル

四月二十三日 金曜日 晴

一、羽田総長教学局参与会議ニ出席

一、正三位勲二等子爵岡部長景氏文部大臣ニ任ゼラル

一、沼越京都府警察部長大阪府ニ転任

四月二十四日 土曜日 晴

一、靖国神社臨時大祭ニ付休業ス尚本日午前八時半学生代表ヲシテ護国

神社ニ参拝セシム

一、総長帰学セラル

四月二十五日 日曜日 晴

四月二十六日 月曜日 晴

四月二十七日 火曜日 晴

一、午前十時天長節打合

一、〃十一時学部長会議（総長会議ノ結果報告）

四月二十八日 水曜日 晴

一、文部省専門学務局大学教育課属山下民藏氏来学（沢瀉、西田両教授ニ講師委嘱ノ件）

一、午后三時ヨリ法経第一教室ニ於テ「ソロモン海戦に従ひて」ト題シ丹羽文雄氏ノ講演アリ

一、午后五時半楽友会館ニ於テ佐藤英吉氏ノ送別会開催

四月二十九日 木曜日 晴

一、九時ヨリ天長節拝賀式挙行 職員一二三名学生五八四名出席
祝賀会ヲ取止メ休憩室ヲ設ク

一、有浦庶務課長東上

一、元書記佐藤英吉氏帰郷

一、湯川秀樹教授文化勲章賜授ノ御沙汰アリ

四月三十日 金曜日 晴

一、日本学術振興会学術部坪中勝吉氏講演会事務打合ノ為来学

一、喜多教授依願免本官

一、羽田総長名古屋帝大創立記念式ニ出席ノ為寺田書記ヲ随ヘ同地ニ出張

一、宇都宮高農校長香川冬夫農学部教授ニ任ゼラル（二等）

五月一日 土曜日 晴

一、午后四時十九分奈良電桃山御陵前駅着電車ニテ岡部文部大臣親任奉告ノ為入洛、都ホテルニ泊
夜総長官舎ニテ接待

一、名大創立記念式挙行セラル

一、総長帰学

五月二日 日曜日 晴

一、文部大臣八時卅六分発ニテ帰東
一、有浦庶務課長帰学

五月三日 月曜日 晴

一、東京帝大書記増田伝一氏来学

一、配属将校村上大佐、門脇中佐本年度京都師管簡閲点呼執行官ヲ命ゼラル

五月四日 火曜日 晴

五月五日 水曜日 晴

一、午后三時ヨリ法経第三教室ニ於テ特別講演会開催

五月六日 木曜日 晴

一、評議会開催

一、日本学術振興会主事熊谷幾也氏及豊島長藏氏来学

五月七日 金曜日 晴

一、橋田前文部大臣退任奉告ノ為桃山御陵参拝ニ付午后四時十九分奈良電車ニテ桃山着 柊家二宿泊 後藤嘱託随行
一、午后六時朝日会館ニ於テ日本学術振興会創立十周年記念大講演会開催

五月八日 土曜日 晴

一、支那事变行賞調書及名簿進達

一、公立中等学校教授宮西光雄本学司書官ニ任ゼラル（六等）

五月九日 日曜日 晴

一、有浦庶務課長福岡市へ出張

一、橋田前文相午后一時三六分発ニテ帰京

五月十日 月曜日 晴

一、三高ニ於テ開催ノ教授研究会ニ出席ノ為西崎大学教育課長入洛、平田囑託随行

五月十一日 火曜日

一、午后五時ヨリ教官食堂ニ於テ喜多先生謝恩会開催（燃料化学教室主催）

一、杉本学生主事補学生主事ニ任ゼラル（六等）

五月十二日 水曜日

一、午后三時ヨリ教官食堂ニ於テ川村教授還暦祝賀会開催（動物学教室主催）

一、午后九時四十分警戒警報発令

五月十三日 木曜日

一、十四日、十五日両日本学ニ於テ諸学振興委員会教育学会開催ニツキ本日ヨリ三日間教官食堂ヲ休ムコトセリ

一、庶務課長帰学

五月十四日 金曜日

一、午前八時半ヨリ午后四時マテ教育学会、同六時ヨリ朝日会館ニ於テ

公開講演会開催セリ

一、酒井教学官来学工学部、理学部ヲ視察セリ

五月十五日 土曜日

一、前日ニ引続キ教育学会開会午后四時終了セリ

一、午后四時四分警戒警報解除

五月十六日 日曜日

五月十七日 月曜日

五月十八日 火曜日

五月十九日 水曜日

一、本年度月曜講義主題ヲ「大東亜建設ノ理念」トシテ開講、本日午后七時ヨリ第一講義田辺教授ノ講義アリ

一、有浦庶務課長防衛団腕章使用打合ノ為京都府警防課へ出張

一、水野書記日・仏印交換教授ガリヤール博士接待用物資特別配給依頼ノ為府特高課及農政課ニ出張

五月二十日 木曜日

一、日・仏印第二回交換教授アンリ、ガリヤール博士入洛

五月二十一日 金曜日

一、海軍聯合艦隊司令長官山本五十六大将南方ニ於テ戦死サレタル旨発

表

(元帥正三位大勲位功一級) 特二国葬ヲ賜フ旨発表

一、午后六時つる家ニ於テ国際文化京都地方委員会主催ノガリヤール博士招待晩餐会開催

五月二十二日 土曜日 晴

一、午后一時半ヨリ運動場ニ於テ青少年学徒ニ賜ハリタル勅語捧読式挙行(ガリヤール博士見学セリ)

一、午后三時ヨリ内科学講堂ニ於テ「マラリヤ予防の原理」ト題シガリヤール博士ノ講演アリ(通訳精神科村上助教授)、講演後附属医院ヲ見学セリ

尚午后六時ヨリ京都ホテルニ於テ総長招待晩餐会開催セリ

一、京都府教育報国団結成式ヲ建礼門前ニ於テ挙行セラレ庶務課長総長代理トシテ列席

五月二十三日 日曜日 晴

一、会計実地検査ノ為岸本検査官以下来学ニ付夜瓢亭ニテ接待

五月二十四日 月曜日 雨

一、文部省柴沼会計課長来学

一、月曜講義(鈴木助教授)

五月二十五日 火曜日 雨

一、午后六時つる家ニテ柴沼会計課長等接待

一、月曜講義(鈴木助教授)

五月二十六日 水曜日 晴

一、翼賛会副総裁後藤文夫氏国務大臣ニ任ゼラル

一、故山本元帥国葬ハ六月五日ト発表

一、日独文化協会初代総裁ニ就任ノ阿部信行大将入洛サル

一、舞鎮経理部大須賀貞材主計大佐午后三時ヨリ第四教室ニ於テ講演

一、秋田鉦山専門学校教授大橋備治本学教授ニ任ゼラル(二等) 鉦山学第五講座担任

五月二十七日 木曜日 曇後雨

一、最高学年学生ノ教練査閲執行(京都練兵場ニ於テ)

一、ガリヤール博士午前十時十三分京都駅発大阪ニ向フ

五月二十八日 金曜日 雨

五月二十九日 土曜日 晴

一、第三期ノ普通教練ハ本日ヲ以テ終了(医専一、二三学年ヲ除ク)

一、午后二時ヨリ総長、書記官、両課長等高槻農場ヘ

五月三十日 日曜日

一、アツツ島守備隊山崎保代大佐以下二千余名玉碎ノ旨大本営ヨリ発表

五月三十一日 月曜日 曇

一、羽田総長東上セラル

一、月曜講義 高坂教授

一、理学部川村多実ニ教授本官ヲ免ゼラル

一、谷口教太郎庶務課事務嘱託発令

大阪府立図書館司書真野健治本学司書ニ任ゼラル
軍事保護院医官小川吾七郎本学助教授(医)ニ兼任セラル
理、上野助教授大津臨湖実験所長ニ補セラル

六月一日 火曜日 晴

一、月曜講義 高坂教授

六月二日 水曜日 晴

一、北海道帝大事務官須藤正憲氏来学
一、理学部久米泰三助教授退官発令

六月三日 木曜日 曇

一、評議会開催、終了后引続キ教官懇親会実行委員打合
一、総長帰学
一、午后七時ヨリ同学会主催ニテ映画会開催

六月四日 金曜日 曇(小雨)

一、午后一時ヨリ部局事務主任者ノ会議ヲ大会議室ニ於テ開催シ有浦庶
務課長ヨリ防衛団腕章ノ件ニツキ指示セラレタリ

六月五日 土曜日 曇小雨

一、午前十一時総長室ニ於テ学部長会議(学生入学ニ関スル件)
一、山本元帥国葬 十時五十分ヲ期シ各自黙禱

六月六日 日曜日 雨

六月七日 月曜日

一、午后一時ヨリ学部長会議(学生入学ニ関スル件)

六月八日 火曜日 曇

一、防空設備資材点検
一、サイレン検査ノ為吹鳴 午前八時、正午、午后四時

六月九日 水曜日 雨

東北学生主事檜垣良一氏文部事務官ニ任ゼラレ体育局総務課兼勤労課勤
務
美作地方事務官文部省教学官(教化局文化施設課兼総務課)
久保田藤麿文部事務官兼任文部書記官涉外課長

六月十日 木曜日 雨

一、午后一時ヨリ学部長会議(学生野外演習ノ件)

六月十一日 金曜日 雨

六月十二日 土曜日 晴

【欄外】

市内特殊地域ニ於テ防空訓練実施

六月十三日 日曜日 晴

一、学生簡閲点呼西部第三十七部隊ニ於テ執行セラル
執行官門脇中佐

六月十四日 月曜日 雨

一、総長東上

一、学内公開、記念講演ポスター本日ヨリ五日間電車公告ス

六月十五日 火曜日

一、本日ヨリ一ヶ月間貯蓄増強運動実施

六月十六日 水曜日

一、帝国議会開会

一、国民服制式特例ノ勅令公布

六月十七日 木曜日

一、評議会開催終了後引続キ学部長会

一、総長帰学

午后零時半ヨリ大ホールニテ学歌練習会

六月十八日 金曜日 雨後曇

創立記念日

一、午前九時総長室ニ於テ勤続職員表彰式(被表彰者秋田正雄外七名)

挙行

九時半ヨリ記念式^{〔マ〕}挙 出席者数職員一二八名学生八三〇名

学生祝辞 法学部三回生横井克己

教授感想談ハ工学部中沢教授

閉式后京大音楽部並ニ京大合唱団ニヨリ「越天楽」及「海ゆかば」ノ

演奏アリ

午后二時ヨリ記念講演 於法経第一教室

民族の問題 経 高田教授

栽培小麦の起原(幻灯) 農 木原教授

午后五時教官懇親会

五時 休憩室開場

六時 晚餐

川村多実二、梅原末治両氏ノ感想談アリ

七時 余興

一、狂言 茂山社中「武悪、神鳴」

一、映画 舞鶴海軍人事部「海ゆかば」

出席者一二六名 午后十時四十分閉会セリ

六月十九日 土曜日

一、午后一時ヨリ学部長会議

一、一、一 一時半ヨリ防衛団規則改正ノ件ニツキ事務高等官ノ会議

一、午后四時半総長国際文化振興会東亜留日学生招待会ニ出席

一、正午各学部教務掛主任者配属将校室ニテ配属将校ト懇談

一、東京都官制公布(七月一日ヨリ施行)

六月二十日 日曜日 晴

六月二十一日 月曜日 晴

本日左ノ通り発令アリタル旨発表セラレタリ

海軍大將從二位勲一等功五級 永野修身

陸軍大將從二位勲一等功一級伯爵 寺内寿一

陸軍大將正三位勲一等功一級 杉山 元

元帥府ニ列セラレ特ニ元帥ノ称号ヲ賜フ

六月二十二日 火曜日 晴

六月二十三日 水曜日 晴

六月二十四日 木曜日 晴

一、午後一時ヨリ共通経費ニ関スル会議開催

六月二十五日 金曜日 晴

皇太后陛下御誕辰ノ日ニ付国旗掲揚

六月二十六日 土曜日 晴

一、大日本学徒体育振興会並大日本体育会主催ニテ十八年度大学高専幹部学徒体育訓練関西地方錬成会ヲ本学運動場ニテ開催引続キ法経第一教室ニ於テ北沢文部省体育局振興課長ノ講演アリ

六月二十七日 日曜日 晴

一、前日ニ引続キ錬成会開催

六月二十八日 月曜日 晴

一、昭和十八年改訂時局防空必携内務省防空局ヨリ発表
一、地方行政刷新強化方策要綱ヲ決定全国九地区別ニ協議会ヲ設置スル
コトトナリタル旨情報局ヨリ発表

六月二十九日 火曜日 晴

六月三十日 水曜日 晴

一、夏期勉勵賞与発令

一、会計課小林道一助手兼書記ニ任ゼラル

七月一日 木曜日 晴

一、評議会開催

一、総長東上

一、東京都誕生ス之ニ伴ヒ生悦住科学局長東京都教育局長ニ任ゼラレ其ノ後任ニ清水文書課長昇格セリ

一、伊藤総務課長文書課長兼総務課長ニ中根調査課長史料編修課長兼務柴沼会計課長勅任発令

七月二日 金曜日 雨

一、ビルマ訪日視察団一行本学見学（工学研究所）
一、三時第一教室「実戦を語る」講演アリ

七月三日 土曜日 大雨

防空訓練ノ件ニツキ松本主事、水野、塚本、鈴庄各書記加茂消防署ニ出頭ス

七月四日 日曜日 雨

一、総長帰学

七月五日 月曜日 雨

一、工学部規程中改正ノ件上申

七月六日 火曜日 晴

京都市染織試験場技師小西行雄助教授ニ任ゼラレ化研所員ニ補セラル

七月七日 水曜日 晴

一、支那事变六周年記念日

一、手持金ノ半額貯蓄

一、書記官奈良市へ出張

七月八日 木曜日 曇

一、大詔奉戴日

一、午后零時四十分ヨリ本部玄関前広場ニ於テ詔書奉読式挙行

式次第

一、国民儀礼 宮城遙拝

皇軍将士ノ武運長久祈願並ニ戦歿ノ英靈ニ対スル感

謝黙禱

一、君が代奉唱

一、詔書捧読

一、聖寿万歳三唱 以上

七月九日 金曜日 晴

一、三鼓履本日ヨリ十日間欠勤届出

一、工学部速水恵次助教授教授ニ任ゼラル

七月十日 土曜日 晴

七月十一日 日曜日 晴

七月十二日 月曜日 晴

一、書記官東上

一、化学研究所官制改正書類提出

七月十三日 火曜日 晴

一、工学部甲寅会予餞会ヲ教官食堂ニテ開催

一、下京区葬 本圀寺

一、理学部関係本学官制改正書類提出

七月十四日 水曜日 晴

一、配属将校門脇弥之助中佐、福井聯隊区司令部課長ニ転任

七月十五日 木曜日 晴

一、本日ヨリ三日間ニ亘リ学生報国隊並ニ防衛団ノ防空訓練実施 本日

ハ法・経両学部本部図書館、人文

加茂消防署ヨリ石井署長以下二十名訓練指導ノ為来学

一、午后一時評議会、学部長会

七月十六日 金曜日 晴

一、工学部、医学部、工研、医専防空訓練

七月十七日 土曜日 晴

一、文学部、理学部、農学部、農場、演習林、化研防空訓練

七月十八日 日曜日 晴

一、不求會員琉璃溪^{（註）}へ鍛鍊旅行実施

七月十九日 月曜日 雨

七月二十日 火曜日 雨

一、本日ヨリ三日間滋賀饗庭野陸軍演習場ニ於テ学生野外訓練実施

一、本日ヨリ二十二日迄市内ニ於ケル公共待避壕構築作業ノ為報国隊出勤

七月二十一日 水曜日 曇

一、夏期休業始

一、理学部助教授中山若枝教授ニ任ゼラル（二等）

七月二十二日 木曜日

一、書記官帰学

一、文部省文書課石塚、齊藤両文部属来学

一、理学部助教授新家浪雄教授ニ任ゼラル（四等）

今村駿一郎及岡崎文彬農学部助教授ニ任ゼラル

七月二十三日 金曜日

七月二十四日 土曜日

七月二十五日 日曜日 雨

七月二十六日 月曜日 雨

七月二十七日 火曜日 晴

七月二十八日 水曜日 晴

一、午后書記官奈良へ出張

一、文学部助教授西谷啓治教授ニ任ゼラル（三等）

一、本学官制及医学専門部官制改正ノ件公布

七月二十九日 木曜日 曇

一、午后一時防衛企画委員会開催

七月三十日 金曜日 晴（夕立アリ）

一、総長東上

一、国際文化振興会京都地方委員会開催 正午於都ホテル

一、藤本尚本学技手（高等官六等）ニ任ゼラル

七月三十一日 土曜日 晴

一、理学部勤務書記住友昶庶務課勤務ヲ命ゼラル

一、目片経蔵庶務課事務ヲ嘱託セラル

一、新京工業大学長ニ長谷川然彦氏就任

一、藤本尚技手依願本官ヲ免ゼラル

八月一日 日曜日 晴

一、ベルマ独立宣言、米英ニ対シ宣戦布告ス

国家代表ニバーモウ氏就任ス

一、上海租界還付、朝鮮ニ徴兵制実施

八月二日 月曜日 晴

一、総長帰学

一、三笠宮殿下陸軍少佐ニ御進級遊ハサル

一、国民学校職員待遇改善ニ関スル勅令公布 即日実施

八月三日 火曜日 晴

一、工学部規程別表中改正

八月四日 水曜日 雨

一、東京帝大庶務課久保田武氏来学

一、鐘江書記官高等官二等ニ陞叙セラル

一、羽田総長及新村名誉教授民族研究所参与被仰付

八月五日 木曜日 雨

八月六日 金曜日 晴

八月七日 土曜日 晴

八月八日 日曜日 晴

八月九日 月曜日

八月十日 火曜日

一、農場桜井書記会計課ニ転任

一、理学部石橋教授評議員ヲ命ゼラル佐々木教授評議員ヲ免ゼラル

八月十一日 水曜日

一、旭戦本学書記(高等官七等四級)ニ任ゼラル

八月十二日 木曜日

一、旭書記依願本官ヲ免ゼラル

八月十三日 金曜日

一、本学防衛団規則改正ノ件公布即日施行セリ

一、腕章配布

八月十四日 土曜日 晴

八月十五日 日曜日 曇

八月十六日 月曜日 晴

一、午前十時ヨリ防衛団総務部員会議開催

八月十七日 火曜日 晴

一、午前十時ヨリ総長官舎ニ於テ医、工、理、農学部長及化研、工研所長ノ会議アリ

一、理学部第二次学生募集ノ件官報登載

八月十八日 水曜日 晴

一、午前十時ヨリ防衛団総務部員会議

一、興亜工業大学教授小田切瑞穂氏航空工学科ノ件ニ付来学

八月十九日 木曜日 晴

一、午后一時ヨリ大会議室ニ於テ防衛団事務主任者会議開催營繕課長ヨリ防空待避収容人員調ノ件ニツキ説明アリ（防衛団総務部長召集）
一、高松宮殿下明治神宮国民錬成会総裁ニ御就任

八月二十日 金曜日 晴

一、夏期休業終

一、閣議ニ於テ科学研究ノ緊急整備方策要綱決定

一、日泰条約調印

一、法学部小野木助教授教授ニ任ゼラル（三等）

一、会計課勤務加藤猪三郎書記臨時附属医専書記ニ兼任セラル